

アンテオケ 宣教会 NEWS

第240号

2022年12月



JAM
Japan Antioch Mission
アンテオケ宣教会

45周年記念リトリート

アンテオケ宣教会前総主事 安海靖郎

9月26、27日、生駒にある関西聖書学院（KBI）近くの宿泊施設で45周年記念リトリートが行われました。初めは帰国中の宣教師のためのリトリートかと思い、勇退して10年になる自分たちは失礼させていただこうと思ったのですが、事務局の方から、元、現宣教師、理事、主事全員による、初めての試みであるとお招きをいただき、夫婦で参加しました。

熱き同窓会

40名近い方々、かつて共に派遣させていただいた宣教師、理事、主事、事務局の方々。それと、歴代の総主事夫妻との再会です。実に嬉しく懐かしい、親しい同窓会となりました。まさに、主のために労した「戦友」との再会の交わりを満喫させていただきました。

主の恵みの回顧

ただ、懐かしいだけでなくJAM（アンテオケ）の45年の歴史を振り返り、主の召しと導きを改めて実感いたしました。45年前、最初にインドネシアに遣わされた団体を、派遣の方法/システムの齟齬で辞任する痛みを通して、JAMの第一号宣教師として遣わされたスタートを思い巡らし、今日までの祝福を思い感無量でした。創立時の厳しいプロセスを我が事のように担ってくださった先生方、これから遣わされるフレッシュな宣教師夫妻と共に、45年間の主の恵みを深く思い、今後の主の導き、歩みと使命を新しい期待/希望として実感いたしました。

主のご期待と希望

多くの宣教団体、教団教派からの宣教師の数は年とともに減り、活動が鈍くなる傾向があります。しかしJAMは、45年経った今、新しいステージ、飛躍の時に思えてなりません。何故なら今までにない派遣体制、つまり総主事がフルタイムで奉仕してくださる体制が整えられました。これは私の代までは叶えられなかったことでした。現総主事の大田先生がKBIの学院長を辞され、フルタイムで奉仕してくださっています。さらに元宣教師や超教派での働きのご経験がある方々や、海外で働いてこられた方々が主事や事務局スタッフとして奉仕してくださっています。昨年移転したお茶ノ水OCCビルの新しい事務所は隔世の感があります。そして、主はこれからアンテオケ宣教会を通して、さらに多くの宣教師を日本から世界に遣わしたいと願っておられ、そのために必要なソフトもハードも整えてくださると実感します。（4ページに参加者の写真）



今は、レッドカード時代

在原繁・津紀子

アルゼンチン

長い夏もようやく過ぎ去り、日傘と三ツ矢サイダーの姿が巷から消えました。諸教会の皆様お元気でしょうか。各地の教会は熱帯を続けながら奮闘しておられますね。これより御霊に励まされて頑張ります。去る9月、10日間にわたり香川、高知両県を祝福いっぱい旅しました。名物・讃岐うどんはやはり格別で、夫婦そろって500gも体重を増やすことができ喜び一杯です。出会った四国の皆様、素晴らしい思い出をありがとうございます。

長旅の荷を解きホッとしていたところ、アルゼンチン在住の娘ルツ子より緊急祈禱課題が入りました。それは現地で勢いを増す「フェミニスタ」の大会模様と、これに対する警告でした。フェミニスタとは極端に女性の権利と、レスビアン、同性婚を主張する団体です。今回の大会をアルゼンチン政府が背後から

支援しており、暴力と放火で現場は荒れ狂ったとのこと。デモは自然発生的には起こらず、資金や弁当を配って人集めをする輩が背後にあり、それはキリスト教会と霊的なクリスチャンを憎み、これを破壊することを企むサタンの働きなのです。

石野博氏（世界宣教センター）の「聖書観をめぐる戦い・恐るべき米国の霊的凋落」（月刊ハーザー 10月号）によれば、『聖書を文字通りの神の言葉である』と答えたアメリカ人は、過去最低の20%で、前回調査（2017年）から4ポイントも下落。2011年は30%、1980年は40%だったことから、わずか40年の間に半減したことになります。この保守的聖書観の急速な減退は、奇しくもLGBT運動が台頭してきた時期と著しく重なる。」とあります。

米国やアルゼンチンが危ない！特に、かつての宣教師輩出大国であったアメリカの分断化と凋落が著しいのです。サタンの究極的な狙いは「神殿」である教会とクリスチャンを攻撃し、これを破壊すること。キリスト教信仰に立つ家庭や学校への攻撃が激化しているのです。「いのちの源」である聖書を攻撃しようとする勢力に負けてはいけません。堅く「聖書信仰」に立ちましょう。（繁）



現地教会との協力

井野葉由美

ドイツ

世界が大きく動いた2022年が終わろうとしています。エネルギー不足や物価の高騰が連日報道されていますが、まだ住める家があり、買える食物があるのですから、恵まれていると感じています。ウクライナからドイツへの難民は百万人となり、彼らはほとんどの物を失い、大きな不安の中にいるのですから、彼らにキリストの光と具体的な助けが届くことを祈ります。

私のメインの働きはドイツ在住の日本人に福音を届けることですが、ドイツ人をはじめこの場所に住んでいる人にも重荷があります。ドイツは文化としてのキリスト教は根付いていますが、実際にキリストと生きた関係を持っているクリスチャンは本当にわずかです。ハンブルクでは最後の1年半、ドイツ教会でもスタッフとして働かせていただきましたが、ミュンヘンでもドイツ教会と協力できる機会を願っています。

まず、スタートしたばかりのインターナショナル教会の牧師とのコンタクトが与えられました。この教会は英語でなく、ドイツ語で礼拝しています。難民としてドイツに来た方は、英語ができない方も多いのです。今までに、一緒に路傍伝道したり、伝道礼拝で賛美リードをさせていただいたりしました。また、日本語礼拝は午後なので、午前中はドイツ教会の礼拝に行っています。自宅近所のルター派国教会でも時々礼拝していたところ、一人のご婦人Bさんが話しかけてきました。彼女は新生したクリスチャンで、キリストに人生を明け渡した体験を牧師に分ち合ったところ、「そんな経験は私にはない」と言われたそうです。「私は、この教会の霊的覚醒のために7年間祈り続けてきた。あなたはその答えだと思う」と言う彼女とともに、まず、週1回平日に教会で祈りと賛美をすることにしました。その後、牧師ともコンタクトが与えられ、礼拝での特別賛美の機会を得ました。これからも時々、何らかの形で礼拝に関わることができるよう願っています。「内に聖霊を宿すクリスチャンがそこにいて、神は働く」と明言するBさんとともにルター派国教会の霊的覚醒を祈っています。

みゆき 実結祈とルル



安川圭吾・美穂

タンザニア

おかえりなさい！空港でバナーを広げて待つ兄弟姉妹たちと抱き合う喜びの瞬間です。今年6月、4年ぶりに帰国した関空での光景、そして3ヶ月の日本滞在を終えてタンザニアに帰った時の光景でもあります。日本とタンザニアのどちらに帰っても「おかえり」と待って下さっている神の家族がいるということは、宣教師ならではの祝福です。日本への帰国は何と4年ぶりでした。多くの教会からお招きいただき、たくさんのお会い、再会、幸いなお交わりを与えられました。また癒しや解放のミニストリー等でも用いていただき、多くの方々と神様が今も生きて働かれるお方であることを体験できました。

さて、子持ちの宣教師にとって、最も大きな試練の一つが引越です。出発準備で連日の寝不足、合計200キロを超える荷物、ドア・ツー・ドアで30時間以上の長旅で、毎回目の焦点

が合わなくなるほど疲れ切ります。今から4年前にタンザニアに戻ってきた時には、長女の実結祈が急激な環境の変化からくるストレスでうつ状態になってしまいました。顔から表情がなくなり笑うことが出来なくなってしまい、毎日泣いていました。そんな時、犬（ルル）を飼ったら慰められて、また笑顔が戻ってきました。今回の日本滞在中は、執事のラザロス兄にルルを預かってもらっていました。タンザニアの自宅に着いたとき、実結祈はルルに会いたがりました。しかし私は「今日は無理だよ。パパ、もう疲れ切ってるし、車もバッテリーが切れていてエンジンもかからないから、明日にしよう」と言いました。その後、しゃべっている娘を見るといたたまれなくなって、「やっぱりルルに会いに行くか？」と言うと、実結祈は顔をぐちゃぐちゃにして泣き出し、抱きついてきて、「ありがとう。ありがとう」と言いました。私の身体は「もうどこにも行きたくない。すぐに横になりたい」と叫んでいましたが、内なる声に従って本当に良かったです。今回は、環境の変化による戸惑いも前回に比べて少なく、実結祈と剣語は元気にやっています。（圭吾）



韓国宣教の締めくくり (2)

三輪修男・文子

韓国

前は、私の友人・趙錫萬牧師が自分の死期を予感して、私にそのことを話したことをお証しました。人が死ぬのは、＜突然のこともあり、予感を与える場合もあり、死ぬ死ぬと言いながらしづとく長生きする＞こともあります。いろいろな死に方がありますが、すべては主がお決めになることです。ヨブは「主は与え、主は取られる、主の御名はほむべきかな」といいました。それは、我々の命がキリストにあることを教えました。それで、主がモーセに「お前は、ここ（ネボ山）で死ぬ」（申命記 32：50）と言われた時、モーセは「そんな馬鹿な！ 私はカナンまで行くのだ」という思いがあったことでしょうか、彼は素直に従ったのです。それ故、モーセは「主の僕」と呼ばれているのでしょう。逆に言えば、私たち「主の僕」は、いつ死ぬか、いつまで生きるかが問題ではなく、主から与えられた任務を果たし終えれば、

いつでも死ぬことができるということです。

私は、ソウルでの働きを通して、白井徹伝道師を奈良県で牧会している牧師の夫として送り、権貞玉牧師を釜山での開拓伝道に送りました。そして今、山田宜寛牧師を日本に送る予定です。こうして私は、ソウルでの宣教と伝道を終ろうとしています。これからの私の奉仕については、派遣教会の新札幌聖書キリスト教会の朴永基先生と相談するつもりです。それまでは、甥の奥村喜樹が牧師をしている西東京市の教会で、一信徒として信仰生活を続けます。

以上で私の「34 年間」のソウル伝道のページは終わります。ちょうど、モーセが申命記 34 章で、荒野の旅のページを終わったのと似ています。この間、神様から与えられた皆様との出会いとご支援は、私の人生にとっては宝です。このことを神に感謝してお別れの言葉に代えさせていただきたいと思います。（修男）



韓国での最後の礼拝



大田先生ご夫妻の韓国訪問

長澤久美子

韓国

秋の深まるこの時期は、こちらでも果物が美味しくそして紅葉が美しい時です。皆様お元気ですか？主に在る変わらぬお祈りとご支援に感謝します。さて、10 月にアンテオケの 3 代目の総主事、大田裕作先生が奥様の伯子先生と韓国にいられました。過去にソウルでお会いすることはありましたが、今回初めて江華島のろう者教会へ来てくださいました。大田先生は 8 月に手術をされたばかりで今もリハビリ中、それにも関わらずわざわざここまで来てくださいました。

週末になるとこの江華島に大勢の観光客が訪れ、道路も渋滞するのですが、その日は天気が良かったにも拘わらずスムーズでした。主が私たちの道を開けてくださったかのようです。ハレルヤ！そしてここにいられたら必見の北朝鮮の見える平和展望台にお連れしました。何と、肉眼でもはっきり見えました。

そこには 1950 年に勃発した南北（朝鮮）戦争で国連軍の一部として参戦した豪州の軍人さんのことが描かれたモニュメントがあります。北朝鮮を遠望して「胸が痛みます」と伯子先生は何度も言われていました。分断されたままの国は今や世界でここだけです！最近では軍事力強化だけに力を入れ、ミサイル発射を繰り返す北朝鮮。しかし心から平和を求める人々がかの国にも大勢いることを覚え、共にその祈りが聞かれるように祈る者です。

それから「キョドン島」というさらに国境に近い島にお連れすると、懐かしいお店が立ち並び、「インドネシアのようだ！」とお二人ははしゃいでおられました。そして主日礼拝で大田先生は、宣教師としてインドネシアで見た日本兵による殺戮のモニュメントのお話しを通して証されました。しかし中でも韓国が一番ひどく日本軍にやられたことを語られ謝られた時は、私も宣教師として同感でした。その日の礼拝はリバイバルの火が付き、ろう者たちの特別賛美が、先生の救いの証の賛美と同じだったのに驚き、主人はアンコールをし皆で力強く又賛美を捧げたのです。それはあの「罪とがを赦され神の子となりたる」喜びがはち切れる礼拝に導かれたのでした。



日本宣教の空の扉が開かれ

朴ダニエル・任妍貞

韓国

韓国では日本は宣教師の墓として知られている。にもかかわらず、韓国の宣教師たちはキリストの愛で日本を愛している。どれほど深い神様の恵みだろうか。歴史的過去により痛みと傷で、韓国教会は日本宣教を継続している。これは神様が望んでおられる真のキリストの愛の姿であり、和解の手を握る霊的祝福といえる。

日本の総人口は 1 億 2400 万人余りであるがプロテスタントの信仰者はわずか 50 万人余り、さらに毎週教会で礼拝を捧げる信仰者は 30 万人にも満たないのが実情だ。そして教会の数は 8 千にも満たず、その中には無牧教会も多く含まれる。正会員数は平均 15 人前後が大多数であり、100 人以上になれば大教会だ。人口 3 万人を超える都市でも教会が一つもない所や、人口 1 万人の村で教会がないところは数多くある。

内向きの指向が特性である日本人は、聖書の価値観である過ちを赦される文化ではなく、厳しい罰が伴うサムライ精神による羞恥心の文化だ。このような日本人にどのように福音を伝えるべきか。新型コロナウイルスで閉ざされていた日本宣教の空の扉が開かれ、コロナパンデミックは国家の社会文化と経済活動の大きな転換点となった。この現象は牧会と宣教にも適用されるが、日本宣教でも戦略的修正が要求される。その中心は後進国の宣教とは違って先進国である日本の教会を尊重し、宣教のパートナーになるということ。

日本ビジョン共同体は、在韓邦人に対する宣教と、韓日両国の教会の霊的架け橋となることを使命とし、ソウルの日本ビジョン教会を拠点として、15 年間福音宣教に携わってきた。その間、日本ビジョントリップを通して日本の教会と宣教のパートナーシップを組むなど、新たな試みを交えてきた。これからも創意的でダイナミックな韓国教会を横軸とし、信実で緻密な日本教会を縦軸とする韓日の十字架論を提案し、開かれた日本宣教の扉に向かって使命を果たしていきたい。（ダニエル）



必要に届く

高橋真一・千恵美
モンゴル

モンゴルでも多くの礼拝や祈り会はリモートで行われています。そして早朝の祈り会や国境を越えての礼拝など新しい集会在たくさん始まりました。モンゴルには以前から海外で仕事や勉強をする人が大勢います。海外での生活の中、言葉や文化の問題で教会へ行かなくなり信仰から離れるクリスチャンもいます。残念ながら日本に来た場合はその割合が高くなるのが現実です。リモート礼拝が用いられ、海外に住むモンゴル人クリスチャンたちの信仰が守られ、成長していけるようにと期待しています。そして日本でのモンゴル語礼拝の必要も覚えます。

テンゲリーンハーンチラル (TX) 教会では新しいセルグループの取り組みも大きく前進しています。そのひとつがシングルマザー・セルグループです。30代から60代までの女性たちが集まります。商店で働く人、学校の先生、国家公務員など職業

も様々です。他愛もないお喋りから、家族の問題、仕事の悩み等、互いの経験や証から教えられ励まされながら、御言葉を分かち合い祈り合います。それぞれに抱えている問題は深刻ですが、明るくパワフルで笑いが絶えません。「このセルグループがなければ生きてこれなかった。」ひとりの方がそう話すと全員が大きく頷きながら号泣、自然と賛美に導かれます。祈り合い、また賛美を捧げ、ハグし合ってまた号泣。祈りと賛美は尽きません。

リーダーはアムラー姉。彼女自身も5人の子を持つシングルマザーです。女性のためのカウンセリングの必要を痛感しています。首都ウランバートルにとどまらず地方の村にもたくさんの必要があります。アムラーはカウンセラーの学びを開始し、神学校でも学び始めました。モンゴルの苦しむ女性に聖書の福音を届けたいと主からの召命を受け取っています。覚えてお祈りください。(千恵美)



記念リトリートの参加者
45周年記念リトリート



北朝鮮をバックに
韓国 長澤宣教師



シングルマザー・セルグループ
モンゴル 高橋宣教師



三輪師引退式
韓国 三輪宣教師



高校生ミニストリー (Young Life)

山鋪 岳

タンザニア教育宣教師

昨年1月に Young Life Camp (以下 YL) という高校生キャンプにスタッフとして参加したことをきっかけに、それ以来高校生ミニストリーに携わっています。YL は 1941 年にアメリカでジム・レイバンという人が、福音を聞いたことのない高校生にイエス・キリストを伝えるために始めたミニストリーです。現在、世界の 100 カ国以上で行われ、ここ HOPAC でも 10 年以上に渡って続けられているそうです。主な活動は「小グループの交わり・弟子訓練」「約 2 週間に 1 回のクラブ」「年 1 回のキャンプ」です。

YL の一つの特徴は、生徒たちとの関係づくりを大切にすることです。ほとんどのスタッフは高校生の授業を持っていないので、キャンプやクラブ、日常を通して生徒たちを知ります。知らない高校生や、特にこちらに興味のない高校生に話しかける

のはときに勇気が必要ですが、私も自分の殻を破って挑戦しています。そうして知り合った高校生と学校で会うと笑顔で挨拶ができ、嬉しく感じます。先日は担当グループの生徒数名とランチを共にし、来月皆でウォーターパークに遊びに行く計画をしました。サーフィンに興味のある子もいたので、いつか連れていきたいと思っています。

YL の関係づくりのコンセプトに「インカーネーション (イエス・キリストの受肉)」という言葉が使われることがあります。イエス様がこの地上に降りて来られたように、私たちスタッフも自分たちの居心地よい世界を出て生徒たちの世界に入っていこう、という考えです。長年教師をやってきた私は、生徒のことや彼らの興味を知ることの大切さは知っていたつもりでしたが、この考え方を聞いてますますその重要性を再確認しました。最近、多くの男子生徒たちが大好きなヨーロッパのサッカーを見始めました。生徒と共通の話題ができて話せることは楽しいですし、私自身、海外での日本人選手の活躍を知ってワクワクさせられます。今年のワールドカップがとても楽しみです。神様が与えてくださる恵みに感謝しつつ、生徒たちと良い関係を築いてイエス・キリストを伝えていければと思います。



新しい家族が増えました

田中潤・恵

派遣待機中

10 月 11 日、我が家に四女・望実 (のぞみ) が誕生しました。長女・枝実 (えみ) は小学一年生、次女・嗣実 (つぐみ) は 4 歳、三女・慈実 (いつみ) は 1 歳半で、賑やかな四姉妹になりました。家の中は常に誰かの話し声、歌声、ケンカの声、泣き声、笑い声で溢れ、子どもたちが眠りに着くとようやく静かな時間が訪れます。その頃には夫婦揃ってヘトヘトですが、毎晩子どもたちの寝顔を見ると神様への感謝が溢れます。思い返せば約 20 年前、「私を世界のどこへでもお遣わしてください」と祈り始めた頃は、こんな未来が待っているとは想像すらしていませんでした。いよいよ単身で遣わされようとしていた準備期間に、同じ神学校で同じ志を持った夫と出会いました。当時の私は、長年祈ってきた宣教地へ単身で行くのか、それとも結婚をするのかとても悩みましたが、悩みに悩み祈った末に、たとえ

遠回りをしても結婚してから宣教地を目指すという道を選択しました。結婚してからは、夫婦で「私たちをお遣わしてください」と祈りながらあっという間に 7 年が過ぎました。その間子どもが与えられ、一人で目指していた宣教地へ、今は家族 6 人で行くことになりました。神様が弱く臆病な私のために、家族というチームを与えて下さったことを感謝します。

家族で宣教地へ行こうとしている私たちにとって、何といっても大きな課題は子どもたちの教育問題です。行った当初は現地の生活に慣れ、また語学習得のため、比較的生活のしやすい都市部に住む予定です。将来的にはまだ福音が伝えられていない「未伝道部族」への宣教に携わりたいと願っているため、子どもたちに十分な教育を受けさせるのが困難な地域に生活の拠点を移す可能性があります。そこで必要になるのが子どもたちに日本語で教育をしてくださる「教育宣教師」の存在です。宣教師の子どもたちに母国語で勉強を教えるということを通して、世界宣教のために共に立ち上がってくださる方を祈り求めているところです。このことのために覚えてお祈りいただけると幸いです。(恵)



みかさんの祈りコーナー

「金銀は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい。」(使徒の働き 3:6)

人々の経済的困窮を十分に満たす経済力は私たちにはありません。しかし主から与えられているものがあります。尽きることのない聖霊様の御力です。

① 未伝道部族伝道ネットワークの働きの守りと祝福、拡大のため。

② 関わっている学生たちの救い、成長のため。

③ 新しい奉仕の扉が開かれようとしています。気持ちは先走りますが、「主の御心なら必ず成る」と祈りを積み上げていきます。



ちえさんの祈りコーナー

一年を通して宗教的な祭事が生活のメインとなっているこの国にも主イエス・キリストの救いの恵みと神の愛が注がれていることを感謝します。また、その背後で祈りの手を上げ続けてくださっている皆様に心から感謝いたします。

・キリスト・イエスに在る喜びと平安がこの国に広がりますように。

・主の御名によって集められた人々が全ての危険から守られ、福音のために立ち上がる勇気をいただくことができますように。

・世界的なパンデミックによって宣教の形が変化を余儀なくされていますが、いかなる時も臆せず主に従って適応することができるよう。



欧州教職者修養会



主に導かれ、遣わされて

川上寧・真咲

ベルギー協力宣教師

今年の7月より、協力宣教師として受け入れていただきました。夫婦でベルギーの邦人伝道に遣わされております川上寧と川上真咲と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

真咲宣教師は初代クリスチャンで、小学校2年生の時に友達に誘われて浦和福音自由教会の教会学校に通うようになり、高校1年生の時にイエスを自分の救い主として受け入れ、洗礼を受けました。その頃に、宣教師の証が書かれている本を勧められたり、海外の神学校への留学を勧められたりすることが重なり、伝道者として献身することを意識せざるをえない時期を過ごしました。しかし、時に「殉教」という言葉さえ耳にする宣教師や牧師に自分になることは考えられず、他の形で神さまにお仕えしていく道を求めました。それはキリスト教主義幼稚園の教師になるという形で実現しましたが、幼稚園教育の中で直面するさまざまな課題や限界、当時の社会問題等を通して再び神さまに捕えられ、神学校への道が開かれ、伝道者として召されます。その間に、さまざまな導きの中で浦和福音自由教会から単立の教会、そしてアッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団の教会に導かれていきました。

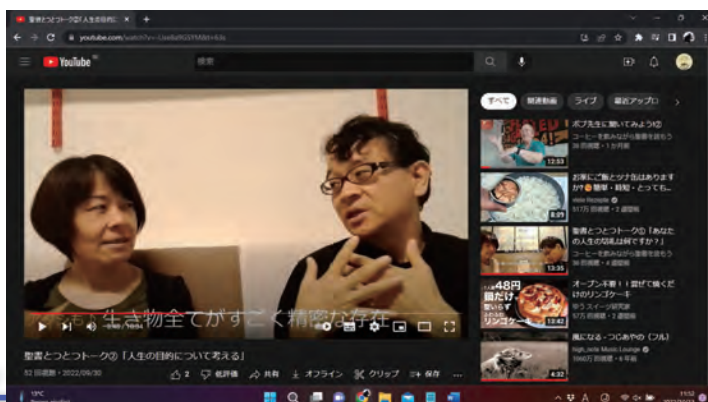
一方、寧宣教師はクリスチャンホームで生まれ育ち、両親が通っていた日本基督教団西新井教会にて幼児洗礼を受け、

中学3年生の時に、アメリカの高校への留学が決まったのを機に親の強い勧めもあり、信仰告白をします。但し、キリスト教や救いについて十分に分かっていたわけではありませんでした。高校はバプテスト系、大学はメノナイト系の学校でしたので、神さまのことについて考える機会はたくさんあった筈ですが、教会生活は大学時代には離れてしまい、肝心の自分の罪の問題については十分に分からない時期がその後も続いていきます。この頃、アイデンティティクライシスに陥り、結局、大学を中退して日本に帰ることになりました。日本に戻ってしばらく経った頃ようやく母教会での教会生活に復帰し教会生活は安定しましたが、仕事の面では違いました。3度の転職と、その後4年間に及ぶアルバイト生活を経た後、神の招きを聞き、神学校への道が開かれ、伝道者として召されます。

このような家庭環境や教団・教派も異なる二人を、その後、主は不思議な導きで結び合わせてくださり、共に日本基督教団の教会での奉仕を経て、ベルギーの日本語教会に遣わされました。この頃は結婚して10年以上経っていましたが、この結婚生活を通して、ようやく神さまは寧宣教師の罪の問題に目を開かせ、救いには主イエスに依り頼むしかないという経験をさせてくださいました。その後、日本語教会を去らなければならなくなり、ビザも切れ、4年半で日本への帰国を余儀なくされました。しかし主は再びベルギーで開拓伝道するビジョンを与えてくださり、新しいビザと共に、新しい宣教の道を開いてくださっています。今後とも、主が私たちを導き、遣わしてくださる場所で、主の御業をなして参ります。(下の写真は現地での働きの一つです)

Awake Europe
夏の路傍伝道

「コーヒーを飲みながら聖書を読もう」のひとつコマ



アンテオケ宣教会会計報告

一般(事務局) 会計収支 (2022年7月1日～9月30日)

収入科目	金額	支出科目	金額
一般 献金	1,284,500	通信費	86,649
宣教師・国内スタッフ献金	300,000	出張費	177,783
アンテオケ分担金	450,000	交通費	116,666
		事務費	803
		活動費	92,400
		ニュース関係費	125,220
		IT関係費	16,500
		事務所賃借料	283,800
		スタッフ援助費	720,000
		備品費	44,330
		広告費	55,000
		接待費	70,061
		奉仕者交通費他	32,289
		業務委託費	20,000
		図書費	-206
		慶弔費	15,000
		諸会費	5,000
		リトリート費	1,301,202
		45周年関連	104,610
		法人設立費用	55,000
		雑費	13,539
前月繰越	2,843,682	次月繰越	1,542,536
収入合計	4,878,182	支出合計	4,878,182

献金芳名リスト (敬称略・順不同) 計 186 件

教会及び団体

旭川めぐみ アルゼンチン宣教を支える会 (2) 泉佐野福音 一条バルナバ 一妻東京
井野師を支える会 (3) 宇井師を支える会 (3) 上田教会 (兄弟団) 江藤みかを支える会 (4)
大磯キリスト (3) 大野キリスト (3) 香登教会 (2) 片柳福音自由 (4) 可児福音 (3) 亀有教会
かもい聖書 (6) 清瀬福音自由 クリスチャン・フェロシップ・チャーチ (2) 郡山キリスト (3)
御殿場純福音 十字架福音 湘南グレースチャペル 鈴鹿キリスト福音 (3) 西武柳沢
高島チャペル (12) 高松シオン (3) 高山師を支える会 宝塚福音 立川駅前 多摩川キリスト
垂水 (3) タンザニアミッション (3) チベット宣教支援会 (6) 東栄福音 (3) 東京若枝 (3)
名古屋一麦 (3) 名古屋グレイス 西宮福音 日本イエス教団事務所 (3)
朴師を支える会 (3) ビサイドチャーチ東京 (2) 平塚福音 (2) プラトナの会 (3)
本郷台 (3) 丸亀聖書 まんでがんバイブル 未伝地ミッションを支える会 (2)
宮崎北聖書 (2) モンゴルミッションジャパン 八尾福音北九州チャペル 八栗シオン (6)
山形響者キリスト (2) 大和キリスト (3)

個人

池野貴弥 井野葉由美 (3) 井原敬二 岩田新 大矢一英 小川雅裕 (4) 岡崎修市
岡本久恵 甲斐博 (3) 加々美要 (2) 菅野昭子 (3) 栗山伸子 杉山準規
世利夕起子 高井ヘラー由紀 (3) 高山嘉津子 (3) 竹内優香 千金町子 (2)
寺田進一 長澤久美子 中見透 浜崎国子 林正敏 姫井雅夫 福本和代
星出卓也・薫 (3) 三浦岸雄 (3) 武藤元康 山下祐弘 (3) 匿名 (7)

*事務局からのお願い・・・1月17日より赤色の払込取扱票による現金でのお振込みが有料となりましたので、可能な方は手数料のかからない「ゆうちょダイレクト」をご利用くださるようお願いいたします。

結祈 毎月第3火曜日
pm7:30 ~ 8:30
(7:00より入れます)

新規の参加申し込みは、
jamchan2021@gmail.com
まで。
ZOOMのURL、ID、パスワードをお送りします。
毎回同じURL、ID、パスワードです。
2回目以降の方は自由にご参加ください。

私たちも世界宣教を応援します！

世界宣教支援広告のお願い

宣教支援の広告欄を設けています。ますます緊迫する世界情勢の中、一層の献身をもって宣教に進進していくために、従来の教会・個人よりのご支援に加えて、さらに広い範囲でのご支援をお願いする次第です。広告で支援してくださる方、事務局までご連絡ください。

総主事 大田裕作

礼拝ができる老人ホーム

やすらぎの介護
シャローム

ハレルヤ
晴れる家

大阪府堺市堺区大仙中町6-24
お問合せは 0120
堺市内に6施設 998-414

「読者のページ」

「宣教師の先生方のお働きを、ニュースレターを通して知り、励まされ、祈らされています。この繋がりで、どんなに信仰が育まれてきたことか、感謝しています。」(Eさんから)

双方向の場として、励まし合っていきたいと思っています。事務局にメールをお送りください。お待ちしております。

去る10月24日の理事会で、2組の宣教師と1組の協力宣教師の受け入れが決まりました。順次ニュースレターで紹介していきます、3組ともインドネシアです、祝福をお祈りください。

大田総主事のリハビリと回復のためにお祈りください。

大田総主事との面会をOCC事務局でご希望の方は、お気軽に事務局にお知らせください。

《事務局スタッフからひとこと》
45周年記念リトリートを開き、久しぶりに再会した先生たち。ここ数年オンラインばかりでしたから、話に花が咲き「交わり」の豊かさを味わい、準備で疲れているはずの体も、リフレッシュができて感謝でした。(菅野)

●毎年思うことですが、夏が過ぎると瞬間にクリスマスが来る気がします。この時の移ろいの中でも、主はじゃむちゃんや結祈を通して、また新しいスタッフを送ってください、アンテオケを支えられます。(菅野)

●この頃痛感しているのは、民族間の文化の違い以上に「世代間のギャップ」が大きくなっていて、コミュニケーションが難しいということです。異文化理解の原則を応用しながら、どうやって意思疎通し、協力していけるか試行錯誤しています。(佐藤)



●次号二四一号は、二〇二三年三月発行の予定です。

事務局便り